

2009年3月期 第2四半期決算 FAQ

Q1:第2四半期（7－9月期）の業績が前回想定（7月30日）と比べて悪化した要因は？

A1:第2四半期の半導体売上高につきましては、前四半期（4－6月期）比で横ばいの1,592億円となりました。前回想定時には、為替レートが円安傾向であったことから前四半期と比べて増収を見込んでおりましたが、ディスクリートや化合物半導体の売上が想定を下回ったことなどにより、円安による売上の押し上げ効果を打ち消すこととなりました。

一方、営業損益につきましては5億円の赤字となりました。前回想定時には、前四半期の営業利益（17億円）と同水準もしくはそれ以上を目指しておりましたが、半導体売上高が前四半期と比べて横這いに留まったことに加え、研究開発費が増加したことなどにより、営業赤字となりました。

Q2:下期の業績下方修正の内容は？どの製品分野が悪化したのか？

A2:下期の半導体売上高につきましては、事業環境の悪化や最新の半導体需要などを再評価したことにより、期初予想から200億円の下方修正を行い、3,100億円といたしました。為替の前提は、1ドルあたり105円、1ユーロあたり145円です。

製品別で見ますと、ブルーレイ・ディスク向け半導体を含む先端製品は引き続き好調であるものの、当社の注力分野のひとつである自動車向け半導体は、自動車業界の悪化の影響を受け減収となる見込みです。また、引き続き在庫調整が想定されるLCDドライバICやマクロ景気の影響を受けるディスクリートなどの汎用製品も減収を見込んでおります。

Q3:半導体市場は厳しさを増しているようであるが、会社想定 of 業績見通しは甘くないか？下期の営業黒字化は達成できるか？

A3:下期の見通しにつきましては、自動車向け半導体の不調、ディスクリートなどの汎用製品の低迷、為替の影響などもあり、厳しい事業環境が続くと認識しております。一方で、ブルーレイ・ディスク向け半導体などの先端製品は好調であり、山形300ミリラインは下期においてもフル稼働となる見込みです。

営業損益に関しては、期初想定から70億円の下方修正を行いました。約80億円の緊急コスト削減施策等を実行することにより、下期の営業黒字化を目指します。

Q4:下期の緊急コスト削減の主な施策はなにか？

A4: 下期の営業黒字化に向けて、当社は生産体制再編の加速と経営効率施策を主とする緊急コスト削減施策を実行いたします。生産体制再編の加速の内容としては、本年12月に予定しておりました山形8インチライン閉鎖を1ヶ月前倒して11月の閉鎖といたします。また、相模原300ミリ試作ラインに関しては、当初2009年3月の閉鎖を予定しておりましたが、3ヶ月前倒して、本年12月の閉鎖といたします。経営効率の改善施策の内容としては、生産関連費用などの固定費削減、資材調達コストの更なる削減、および研究開発費の効率化を実施いたします。

これらの施策により、上期と比べて約80億円の費用削減を行います。

以上